

関電新聞

関西電力グループ
power with heart

2022
No.1070

大阪・関西万博

未来の「あたりまえ」を守り、創る挑戦を加速

2025年に開催予定の大阪・関西万博。9月7日、未来社会ショーケース事業に関西電力等の「来場者移動EVバス」が採択された。万博会場で100台の電気バス(EVバス)を運行させる世界的にも類をみない試み。これはまさに未来の「あたりまえ」を創る挑戦だ。また、万博会場の電力インフラを関西電力送配電等が提供することも決定。長年培った技術で万博会場の「あたりまえ」を守ることとなる。

大阪・関西万博での関西電力グループの挑戦は、まさしく経営理念の実践。今回はその最前線を紹介する。

大阪・関西万博への参画

企業が万博に参加するパターンは、大きくは、「パビリオン出展」「テーマ事業協賛」「未来社会「テーマ事業協賛」」未来社会

大阪・関西万博への主な参加パターン

未来社会ショーケース事業出展 会場内で未来社会の実証・実装やテーマを具現化する展示を行う参加	テーマ事業協賛 8名のプロデューサーが企画するテーマ事業に協賛社として参加	パビリオン出展 万博のテーマに沿って自由な発想で独自に企画・出展する参加
--	---	--

第1弾 発表分野		
スマートモビリティ万博 関西電力の採用分野	デジタル万博	バーチャル万博
・会場アクセスバス ・会場内・外周トラム ・会場内パーソナルモビリティ ・ロボット(物流、清掃) ・空飛ぶクルマ 等	・来場者エージェント ・XR案内 ・自動翻訳システム ・高速大容量通信環境 ・大型映像、サイネージ 等	・バーチャル会場 ・XR演出 ・サイバー万博(仮称) 等
未発表分野		
アート万博	グリーン万博	フューチャーライフ万博

※2021年8月19日 2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)出展参加説明会資料より抜粋・加工
下線は第一弾として発表された事業

が着々と進んでいる。関西電力グループは「未来社会ショーケース事業」への出展に向けた取組みを進めている。

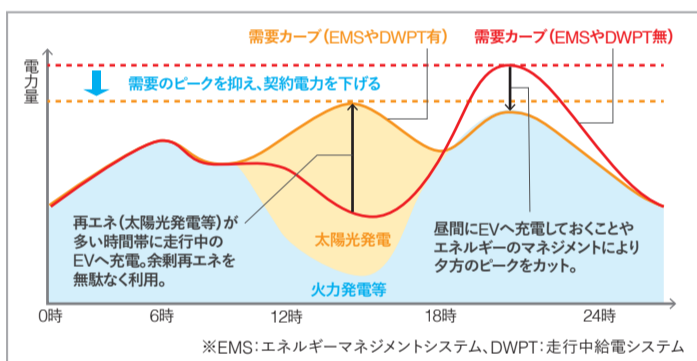
未来社会ショーケース事業とは

未来社会ショーケース事業は、万博のテーマである「いのち輝く未来社会」を支える技術・サービス等を、2025年以降の未来を感じさせる「実証」と2025年の万博にふさわしい「実装」の形で、万博会場の整備・運営・展示・催事等に活用し、国内外の幅広い参加者や来場者に体験として提供する6つの事業群の総称である。

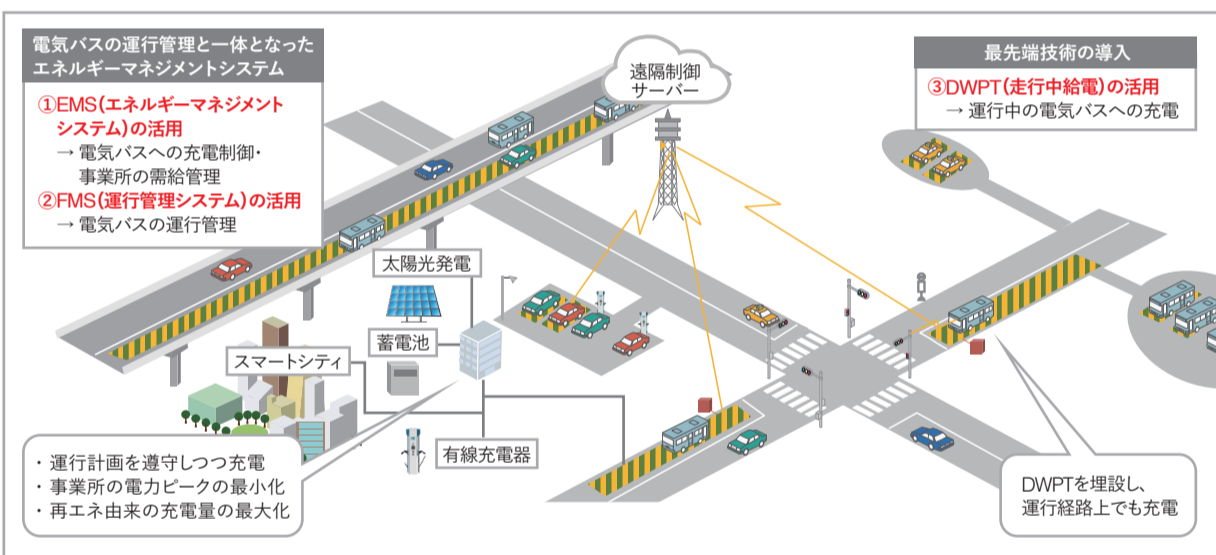
来場者移動EVバス

9月7日、2025年日本国際博覧会協会(万博協会)が「未来社会ショーケース事業出展」協賛企業の第一弾を発表。関西電力が大阪高速電気軌道株式会社、株式会社ダイヘン、株式会社大林組と合同で取り組む「来場者移動EVバス」が、未来社会ショーケース事業を構成する「スマートモビリティ万博」の取組みとして採択された。この取組みは、カーボンニュートラルの実現に向けて国が開始した、グリーンイノベーション基金事業の開発成果を万博会場で技術実証するもの。具体的には、万博

来場者の移動を、よりスマートに、よりクリーンに実現することを目的に、会場内周回バスおよび会場アクセスバスとして、EVバスを100台導入する。あわせて、バスの運行管理と一体となったエネルギーマネジメントシステムを活用し、モビリティの運行と充電の最適化に向けた技術実証を行う。通常、EVバスの運用には、バスに搭載された大容量の車載電池に日々充電する必要がある。その際、急速充電器を使用するため、契約電力が大きくなり、電気料金の増加や電源設備の大容量化による設備コストの増加につながる。今回の実証では、運行管理と一体となった充電制御等により、充電時間や充電量を最適化することで、コストを抑えながらの運用が期待できる。



■エネルギーマネジメントのイメージ



■事業全体像のイメージ

また、本事業では、道路に埋設したコイルから、走行中のEVバスにワイヤレスで給電する「走行中給電システム」の実証も進められる。万博会場を周回するEVバス35台のうち、10台のEVバスに走行中ワイヤレス給電設備が搭載される予定。これにより、充電のための停車が不要となり、さらなる効率的な運用が期待できる。

9月7日には、未来社会ショーケース事業の採択結果発表の場に、関西電力からは森社長が出席。本事業を通じて、最適な運行計画と再生可能エネルギーを最大限に活用したエネルギー供給を実現することができると、共同事業者と力を合わせ、持続可能な「スマートモビリティ社会」の構築に取り組みたいと、関西を基盤とするエネルギー事業者として、万博という一大イベントに臨む意気込みを表明した。



■イベントに参加した森社長(右から2番目)

森社長も従業員に向けたメッセージの中で、「万博を成功させることは経営理念の実践に他ならない」と、成功に向けた期待と覚悟を語っており、世界的なイベントの成功に向けた関西電力グループの挑戦は加速していき

万博会場の電力インフラを構築 長年培った技術で、「あたりまえ」を守る

8月24日、関西電力送配電を代表とする企業グループ(関西電力送配電、きんでん、ダイヘン)は、万博協会が公募した「電気供給施設運用等委託業務」を落札した。これにより、万博会場内の電気設備(特別高圧・高圧受変電設備や自動火災報知システム等)の設計・設置工事、保守・運用、万博開催後の設備撤去工事を受託する。

「万博電気供給施設PT」の設置

関西電力送配電は、万博会場の電力インフラ構築を進めていくための「万博電気供給施設プロジェクトチーム」(以下、PT)を設置。社長直下の組織として、配電部門、変電部門、制御部門、通信部門から集結した精鋭11名の体制で、9月9日から始動している。安全を最優先に工事を遅滞なく万全に進めていくことで、関西万博の「あたりまえ」を守るべく、日々、インフラ構築に向けた準備に取り組んでいる。

関西電力送配電
万博電気供給施設PT
チームマネージャー 福田 一芳さん

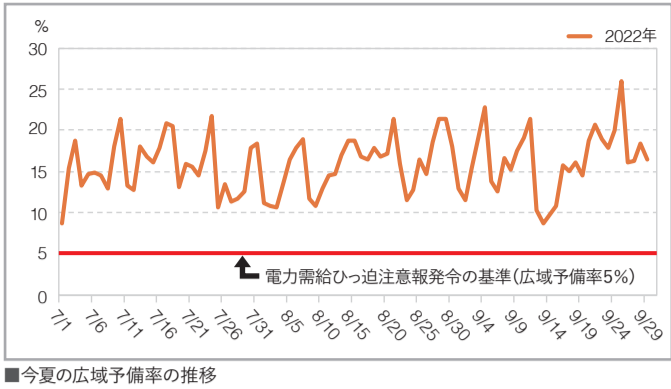
我々PTのミッションである万博という国家的プロジェクトへの電力供給は非常に重要なものです。遅延を許さない環境下で、一般送配電事業と同様に、電力の安全・安定供給という当社の使命を果たさなければなりません。そのためには、我々PTのみなさんが、全社を結集させることが不可欠であり、皆さまの支援・協力を得ながら、安全を最優先に何としても完成させる所存です。

夏季需給対応の裏側 供給力確保のために

今夏、日本全国において需給ひっ迫が懸念された。関西電力および関西電力送配電は、電力需給対策本部を設置。需給両面で最大限の取組みを行い、社会やお客さまからの節電のご協力を得ながら、安定供給を確保した。

今夏、供給力確保のために懸命に取り組んだ職場を紹介する。

電力需給の実績



今夏の需給状況については、7月から9月にかけて広域予備率は10〜20%前後で推移する等、9月下旬時点で安定供給を確保できている。関西電力グループは、供給面において必要な燃料の確保や、電気設備の保安管理の徹底による計画外停止の未然防止等に努めた。また需要面では、国や自治体と連携した節電PRに加え、自社の節電にも取り組んだ。

第一線職場の努力

供給力確保のために、懸命に取り組んだ皆さんに話を聞いた。

南港発電所 保修課
村上 祐人さん



私は、機器の修繕等の計画を担当しています。南港発電所は運転開始から30年を迎え、経年劣化している機器や部品も多く、コスト削減も考慮しつつ、突発的な不具合にも迅速に対応できるように備えました。設備不具合も発生しましたが、他所と迅速に情報連携し、補修用品の融通を受けることで、早期に復旧できました。

南港発電所は現在、定期点検工事中で、12月上旬の完遂を目指しています。今冬の需給に影響を及ぼさないよう、協力会社の方々と密に連携を取って、安全最優先の下、工期内で完遂できるように、強い使命感を持って取り組んでいます。

再生可能エネルギー事業本部
総合水力制御所
上 淵 涼平さん



今夏は、日々の需要や他電源の発電状況に合わせた発電計画の作成に注力しました。特に、ダム貯水量や河川の水量は天候によって変動するため、様々な条件を踏まえながら発電計画も細かく見直し、安定的な供給力を確保できるように努力しました。

今冬についても、今まで以上に効率の良い発電ができないか、ダム管理所の方々と巻き込みながら、現在も試行錯誤を続けています。河川の安全を確保しつつ、1kWhでも多く、電気を届けたいという気持ちで取り組んでいきます。

今冬に向けて 冬の節電プロジェクト2022



国が公表した内容によると、今冬の需給状況の見通しは、10年に1度の厳しい気象を想定した場合、最も厳しい1月で、中・西日本の予備率が4.8%と、安定供給に最低限必要な3%は確保される見通しだ。しかしながら、想定を超える電力需要の増加や、燃料の調達リスクを踏まえ、「依然として厳しい見通し」の見解が示されており、関西電力グループにおいても、今夏に引き続き、需給両面であらゆる対策を講じる必要がある。

関西電力は、9月29日から「冬の節電プロジェクト2022」の受付を開始。国の節電事業にも参加し、より多くの方にご参加いただけるよう、今夏のプロジェクトから取組みを追加・拡大している。

冬の節電プロジェクト2022の特徴

- 国の節電事業による参加特典として、2,000ポイントの「はびeポイント」を進呈
- 今夏に引き続き、当社が指定する時間の節電量に応じて、ポイントを進呈する取組みを実施
- 月間の電力使用量を前年同月よりも削減した場合にポイントを進呈する取組みを追加
- 低圧電力等ご参加いただける料金メニューの対象を拡大

※夏のプロジェクトにご参加いただいた方も再度お申し込みが必要です

気象庁から、今冬は厳しい寒さとなることが公表されている。従業員一人ひとりが電気の一利用者として本プロジェクトに取り組み、協力いただくことで、この冬を乗り越える一助としていきたい。

詳細はこちら
冬の節電プロジェクト2022



DXを全社大へ展開 生産性向上」と「価値創出」の 両輪で

本年8月、関西電力および関西電力送配電におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)推進者を2025年度までに1,000名以上に増やすと発表した。また今後は特に「価値創出」の取組みを強化し、中期経営計画に掲げる「ゼロカーボンへの挑戦(Ex)」「サービス・プロバイダーへの転換(Vx)」「強靱な企業体質への改革(Bx)」の実現につなげていくとした。関西電力グループにおけるDX人材育成の見通しと、現在のDX推進状況を紹介する。

DX推進者の拡大

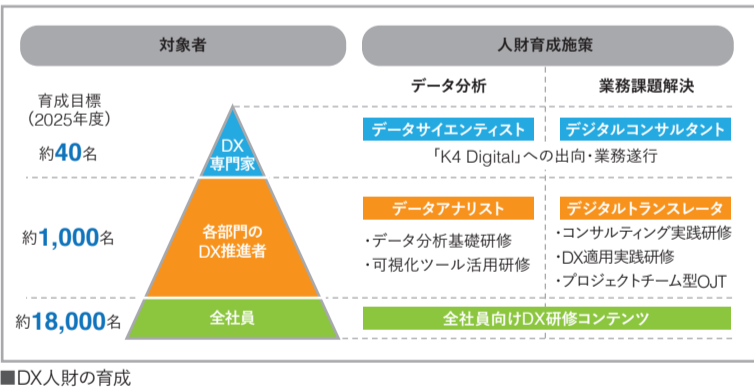
DX推進の基盤である「DX人材」については、これまでデータ分析に関する専門家の育成を中心に実施してきた。今後は各部門のキーパーソン「DX推進者」の育成を一層進めていく。具体的には現在400名程度のDX推進者を、2025年度までに1,000名以上に増やす見通しだ。

エネルギー需給本部のDX推進者である奥田さんに話を聞いた。



エネルギー需給本部では、今年の7月、本格的なDX推進に向けた専任チームが発足しました。チームでは、人財育成も含めたDXの大きな道筋を描きつつ、実務に取り組む従業員のニーズを解決するために日々手探りで業務に取り組んでいます。

足元では、電力需要量や太陽光発電量等の想定業務における精度向上や、燃料調達管理や計画時のリスク評価等の業務プロセス改善のために、AIを活用していく検討を進めています。AIには多種多様なツールがあり、実務をさせる方の具体的なニーズや課題点に加え、DXの道筋に合うものを探することに苦労します。それでも、DX化が進むことで業務全体、部門全体の改善を実現していくということに非常にやりがいを感じています。引き続き前向きに取り組んでいます。



全社で展開されるDX

関西電力および関西電力送配電は、2018年度から2021年度の間で、デジタル技術を活用したPOC(概念実証)を493件実施し、357件実用化した。実用化したDXは、業務効率化等に資する「生産性向上」をメイン

に、4年間合計で効果額200億円以上と一定の成果を上げてきた。データ入力自動化、AIやドローンの活用等、第一線職場における業務効率化にも大きく貢献している。

今後は2023年度で効果額300億円を目指しており、現在も多数検証が進められている。その一つを紹介する。

※POC(概念実証): 新たなアイデアの実現性や効果等の検証

現場作業に伴う負担を大幅軽減 フィールドサービス 管理システム構築

関西電力送配電が取り組む「フィールドサービス管理システム」は、停電時のお客さま申し出等の現場作業に伴う手配や作業管理、作業後の事務処理をデジタル化し、効率化するものだ。

現状の手順では、手配者が毎日の作業手配を帳票出力し、人の手で振り分けて手配結果をシステムへ登録。作業員は、作業結果を現地で紙に記載し、事業所に戻った後にはシステム登録する等、重複した管理を行っている。

しかし、本システムが実用化すれば、クラウド上で作業を手配し、作業員のスマートフォンで即時に確認可能になる。作業結果の入力や状況確認等もスマートフォンで即時に行えるため、事業所に戻った後の事務処理も基本的に不要になる。手配作業や現場作業が簡易になり、帳票の管理も不要になることから、作業に伴う負担の大幅軽減が見込まれている。

本システムは、現在3営業所で先行運用されており、2022年10月末の全事業所での運用開始を目指し、準備が進められている。

「生産性向上」と「価値創出」の 両輪で

今後は「生産性向上」に加え、収益の増加や、新規事業・サービス創出につながる「価値創出」の取組みも強化していく。「価値創出」による利益は2021年度実績で57億円。2023年度には約3割増の74億円の効果を目指す。「生産性向上」と「価値創出」の両輪で、中期経営計画の実現につなげていく。

事前準備(手配)

- 手配をシステムで自動化(レコメンド)
- 作業指示はiPhoneで確認(強固なセキュリティ)
- 紙出力廃止
- セキュリティ向上
- iPhoneの業務活用

作業中(現場作業/作業管理)

- 作業員は地図アプリで最適移動ルートを確認し現場へ
- 手配者はシステム・位置情報にて進捗確認
- 追加作業等はシステムで手配、連絡はチャットを活用し、写真送付も可能
- グローバルスタンダードの様々な機能の活用による業務効率化

作業後(事務処理)

- 現場でシステム登録、リアルタイム反映
- 作業完了の都度、役職者点検
- 様々な角度で作業効率等の分析が可能
- データの可視化・分析による新たな課題の発掘や業務改善への寄与

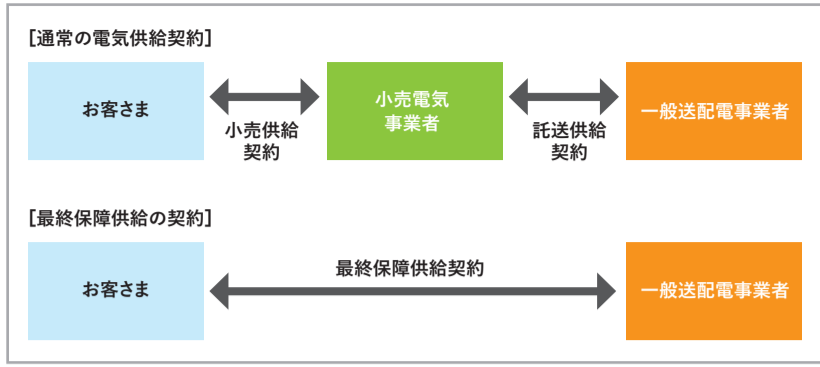
■フィールドサービス管理システムのイメージ

電気供給契約におけるセーフティネットのあるべき姿

燃料価格高騰等の影響で、高圧および特別高圧のお客さままで旧一般電気事業者(小売部門)への契約切り替えの要望に対して、ご期待に沿えない状況が今春以降発生した。

また、卸電力市場価格が高騰し、小売電気事業者の自由料金の水準が最終保障供給料金よりも割高となり、最終保障供給への申込みが増加する逆転現象が生じた。

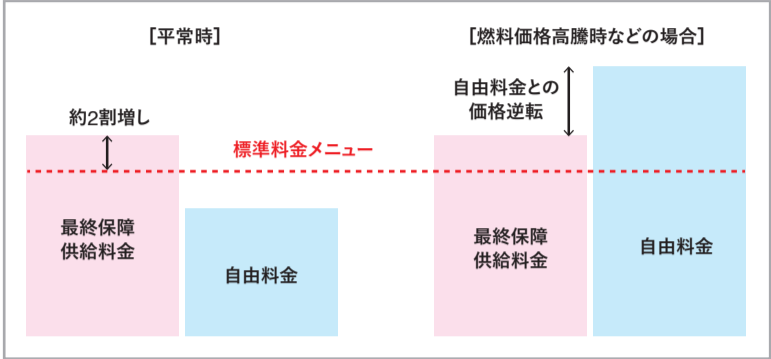
このような状況を是正すべく、国の審議会で議論が進められた。関西電力グループの対応とあわせて解説する。



■電気供給契約のイメージ

最終保障供給料金を巡る国の議論

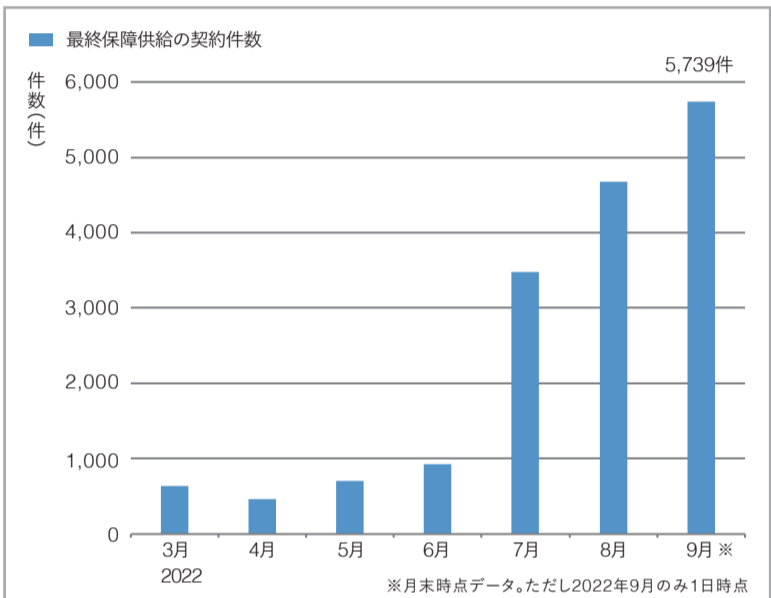
最終保障供給は、高圧または特別高圧で供給を受けるお客さまが、万が一、いずれの小売電気事業者とも契約の交渉が成立しなかった場合、一時的に一般送配電事業者が電気を供給する制度だ。セーフティネットとして、旧一般電気事業者(小売部門)が設定する標準的な小売メニュー(標準メニュー)より2割ほど



■最終保障供給料金と自由料金との関係

この状況は、適正な価格形成や自由競争を阻害するおそれがあることに加え、一般送配電事業者が本来調整力として用いるべき供給力が最終保障供給に活用されることは大幅に増加している。

これが、ウクライナ情勢等による燃料価格高騰の影響で、平時では標準メニューを下回る自由料金の水準が高騰し、最終保障供給料金よりも割高となる現象が発生した。結果として、最終保障供給の契約件数は大幅に増加している。



■関西エリアの最終保障供給の推移 ※2022年9月15日 資源エネルギー庁「電力需給対策について」より作成

国の議論を踏まえた関西電力グループの動向

こうした国の方針を受け、関西電力は7月29日に、高圧および特別高圧のお客さま向けに、今後の「標準的な電気料金メニュー」の新

関西電力の新料金プラン「卸市場価格連動メニュー」受付開始

関西電力は、7月29日に公表した方針のとおり、8月15日に2023年4月までの間、お客さまからの新規申込みの要望にこたえるため、新たな電気料金プラン「卸市場価格連動メニュー」の受付開始を発表した。

関西電力送配電による電気最終保障供給約款の変更届出

関西電力送配電は、関西電力が標準メニュー受付に関する見直しを公表したことから、8月10日に経済産業大臣へ電気最終保障供給約款の変更に係る届出を行った。

国の議論を踏まえて、電力量料金単価の算出にあたり、新たに卸電力市場価格を反映した市場価格調整単価(毎月変動)を加算・減算する。燃料価格高騰時等はこれまでの請求金額よりも増額となる可能性があるが、適正な価格帯への是正が期待される。

【見直し前の料金体系】

$$\text{最終保障供給料金} = \text{基本料金単価} \times \text{契約電力(kW)} + \left(\text{従量料金単価} \pm \text{燃料費調整単価} \right) \times \text{使用電力量(kWh)}$$

【見直し後の料金体系】

$$\text{最終保障供給料金} = \text{基本料金単価} \times \text{契約電力(kW)} + \left(\text{従量料金単価} \pm \text{燃料費調整単価} \pm \text{市場価格調整単価} \right) \times \text{使用電力量(kWh)}$$

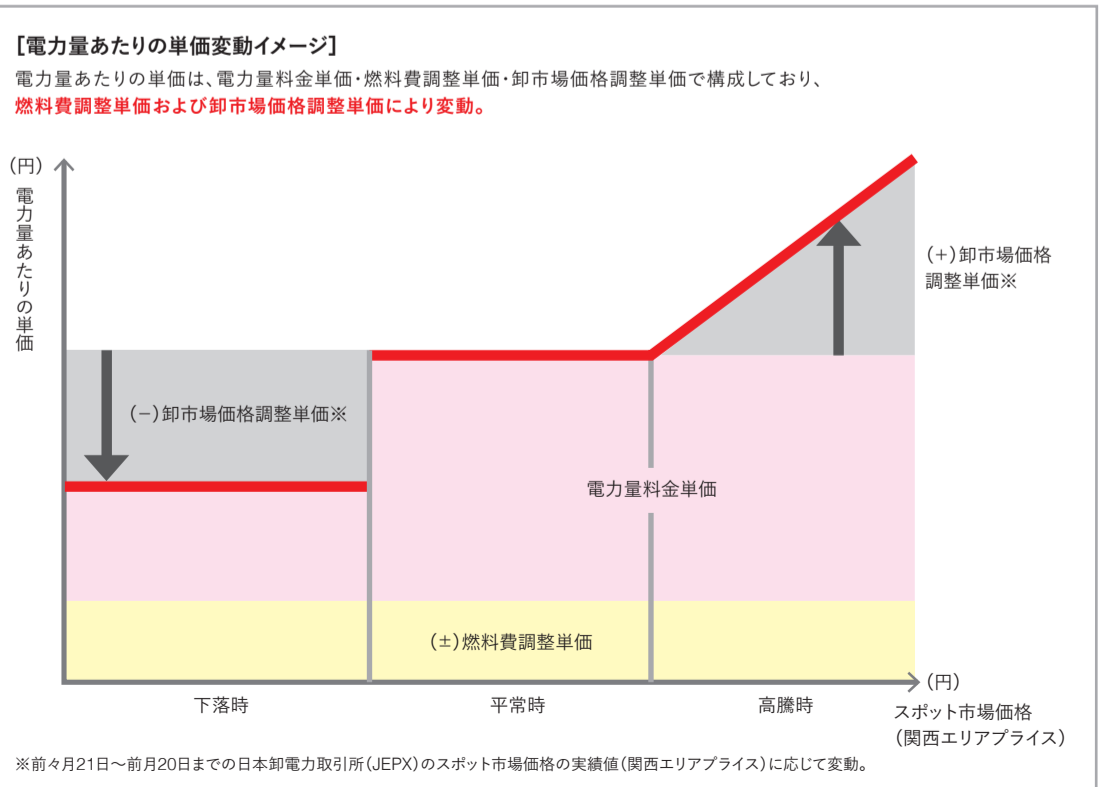
※関西電力が公表している標準メニューの1.2倍の水準

■関西電力送配電の最終保障供給料金の見直しイメージ

	メニュー	基本料金 (円/kW)	電力量料金 (円/kWh)
関西電力	標準メニュー	★	◆
	卸市場価格連動メニュー	★	◎(市場連動) ※1
関西電力送配電	見直し後の最終保障供給	★×1.2	◎(市場連動) ※2

同一記号は、同じ金額を示す。なお、◎≧◆×1.2となる
 ※1: 他季単価のみ設定
 ※2: 夏季単価(7月~9月)、その他季単価(7月~9月以外)を設定

■関西電力の標準メニュー、卸市場価格連動メニューと関西電力送配電の見直し後の最終保障供給との比較



■関西電力の卸市場価格連動メニューのイメージ

担当者インタビュー

関西電力送配電 企画部 託送料金グループリーダー 横山博之さん



燃料価格高騰等の影響により、小売料金が、最終保障供給料金よりも割高となり、お客さまが最終保障供給料金を選択するといった事象が課題となっていました。

今回の見直しにより、適正な価格帯への是正や、お客さまのためのセーフティネットとして本来の制度主旨に沿った運用の実現が期待されています。今後は、今回の料金見直しがお客さまへの影響を注視しつつ、最終保障供給に関して、一般送配電事業者としての役割・責任を果たせるよう、貢献していきます。

国体応援企画 関西電力ボート部に潜入!

関西電力ボート部は、「ボート競技を通じた地域スポーツの振興」等を目的に発足して以降、数々の優秀な成績を残し続けています。今回は、10月の栃木国体に向けて練習中のボート部に新入社員の遠藤が潜入。練習風景やボート競技の魅力をお伝えします!

新入社員の遠藤です!高校時代は茶道部で運動習慣は全くありませんが、今回ボート競技に挑戦します!現場の様子をお伝えできるよう、全力でレポートします!



ボート部の朝練に潜入しました!

朝練の様子

1. 早朝5時半頃から部員が続々と艇庫に到着し、ボートの準備やストレッチ等を始めます。
2. 準備が整い次第、水上へ。この日は波が少なく練習日和。それぞれが思い思いのペースで練習に取り組みます。
3. 練習終了後は、片付けや着替えを済ませて帰宅します。10時頃には出社して業務開始!



取材時は国体に向けた追い込み期間で、練習量は普段より多めとのこと。2時間以上黙々と漕ぎ続ける選手もいました!



ボート部の練習場所は、三方五湖のひとつ「久々子湖」。三方五湖はその名の通り五つの湖からなり、水深と塩分濃度の違いにより五湖それぞれの水面の色が異なることから、別名「五色の湖」ともいわれています。



長い距離を漕ぐ練習の時には、隣の水月湖で練習することも。浦見川を通して移動します。浦見川の掘削は小浜藩士の行方久兵衛によって全て手作業で進められ、2年の歳月を経て完成したとのこと…

どれくらい知ってる?

ボート部クイズ! 答えは下に

Q1. 艇庫の中には1人漕ぎから8人漕ぎまで様々なボートがあります。2人漕ぎのボートの重さは何kgでしょう?

- ①約14kg
- ②約27kg
- ③約51kg



Q2. ボートだけでなく、オールもたくさんあります。「関西電力」のロゴが入ったこちらのオール、長さは何mでしょう?

- ①0.5~0.8m
- ②1.5~2.5m
- ③3.0~4.0m



Q3. ボート部の練習で使用しているのは、片道2kmほどのコース。さて、朝練では全部で何km漕いでいるでしょう?

- ①約8km (2往復)
- ②約20km (5往復)
- ③約40km (10往復)



ボート部に体験入部!

水上練習

ボート競技は漕ぎ手の人数とオールの本数で競技種目が細かく分かれています。それぞれの出場種目ごとに競技用ボートを使って水上練習に取り組みます。

漕ぎ手数	スイープ種目		スカル種目	
	オールを1人1本持って漕ぐ 舵手つき*	舵手なし	オールを1人2本持って漕ぐ 舵手つき	舵手なし
1人	—	—	—	シングルスカル
2人	—	ペア	—	ダブルスカル
4人	舵手つきフォア	フォア	舵手つきクォドルブル	クォドルブル
8人	エイト	—	—	—

*舵手とは: コックスのこと。艇の舵取りとクルーへの指示を行うポジション。



競技用ボートを体験!

今回、ダブルスカルに挑戦!一見オールを動かす腕力が重要に思えますが…そもそもボートとは座席が前後に動き、オールを支点に脚力で進むもの。ボートを進めるためにしっかりと脚を動かす必要がありました。

慣れてくると周りの景色の移り変わりや、風の気持ち良さを楽しむことができました!



室内トレーニング

室内では、水上での動きを再現したマシン「ローイングエルゴメーター(エルゴ)」を用いたトレーニングを行います。一回漕ぐごとに、「その力で漕ぎ続けた場合のタイム」が画面に表示されます。



一回漕ぐのにもかなり全身の力が必要でした。ラストの50mは特にしんどかったです…

ボート部員とエルゴ対決!

今回は、ボート部員の高野さんと、200mを漕ぎきるまでのタイムで対決。スタートした瞬間、横からは空気を切る音が…。結果はもちろん高野さんの圧勝。高野さんはエルゴの国際大会で優勝した経験があるそう。ちなみに…
高野さんタイム: 38秒5、遠藤タイム: 1分2秒5



この日から数日間、全身筋肉痛に。日頃から運動する習慣の大切さを実感しました。

ボート部員の高野さんにインタビュー!



原子力事業本部 原子力企画部門 経理グループ

たかの あきほ 高野 晃帆さん

至近の戦績	2019年	2020年	2022年
	●全日本選手権舵手なしペア 優勝 ●U23世界選手権舵手なしペア 8位 ●全日本大学選手権舵手つきフォア 優勝	●全日本選手権舵手なしクォドルブル 優勝	●全日本選手権 ペア 優勝 ●全日本選手権 エイト優勝 ※立命館大学と混成

Q. ボート競技を始めたきっかけは何ですか?

A. 中学生の時に競技を知り、高校1年生のときに、興味本位で始めました。

Q. 関電ボート部ではどのような練習をしていますか?

A. 今は10月の栃木国体に向け、国体特有の競漕距離の短いレースにも対応できるよう瞬発力を鍛えています。また、女子選手は夏場に筋力が落ちやすいため、筋トレも行っています。

Q. ボート競技の魅力は何ですか?

A. 経験を重ねてもなお、スピードを追求できる点です。成長を感じられた時、厳しい練習を乗り越えて良かったと感じます。

Q. 業務との両立で苦労したことはありますか?

A. 朝練習することで目が覚めるため、すっきりとした気持ちで業務に臨んでいます。合宿等でしばらく業務を離れる際は同僚の方に仕事をお願いする等、職場のサポートを得ながら両立に努めています。

Q. 今後の意気込みをお願いします!

A. 福井県の天皇杯獲得(国体で男女総合成績第1位)という大きな目標に向け部員一同準備していきます。全社からさらに関電ボート部を応援していただけるよう、日々の練習を結果に繋げたいです。

職場から高野さんに応援メッセージ

「誰よりも長く漕いでいたい」と驚異的な練習量を誇る高野さんですが、仕事に対してもひたむきな姿勢で向き合い、まわりと上手コミュニケーションをとりつつ丁寧に取り組んでいます。大きな目標に向かって日々努力する姿に職場もよい刺激を受けています。『がんばれ!高野さん!』



ボートを漕いで進んだ時の達成感、風の気持ちよさ、そして筋肉痛と、ボート競技への理解を深め、魅力を体感した潜入となりました。業務と両立して日々練習に取り組むボート部の皆さんを、これからも全力で応援していきたいと思います!

編集者のつぶやき

▼最近では定着しつつある「エモい」という言葉。「エモーション」を語源とし、心を揺さぶられたときなどに使う。ちょっと前は音楽等の限られたシーンでしか使われていなかったような気もするが、最近ではあらゆるところで見聞きする。
▼1970年万博では、携帯電話等、今では「あたりまえ」となったものや技術が、未来の技術として紹介等されたというエピソードを知ったとき、私はなんとも言えない気持ちになったが、今思うと、あの感情を端的に表す言葉は「エモい」だったと思う。2025年大阪・関西万博も未来社会の実験場として色々な新技術が実装される。そうした新技術も50年後の未来には「あたりまえ」のものになっていくかもしれない。万博はエモい。
▼大阪・関西万博の成功に向けて関西電力グループもあらゆる形で取り組みを進めていく。その一つ一つが「あたりまえ」を守り、創ることに他ならない。あらためて思うが、この経営理念は相当グッとくるフレーズだ。我々が経営理念を実践すること、2025年、未来が示される万博会場で「関電ってエモいやん」と社会の皆さまに感じていただきたい。

ボート部クイズ答え Q1. ②[ちなみに、①約14kgが1人漕ぎ、③約51kgが4人漕ぎのボートの重さです。] Q2. ③[スイープ種目(1人1本)のときは4m弱、スカル種目(1人2本)のときは3m程のオールを使用します。] Q3. ②[朝練中はまとまった休憩はとらず、軽い水分補給のみ。あとは時間の許す限り漕ぎ続けます。]